

5号機給水加熱器水位調整弁の修理に伴う出力降下について

<概要>

(事象の発生状況・今後の対応)

・調整運転中の5号機において、給水加熱器の水位調整弁を動かすための空気が漏えいしていることを確認したため、7月12日午前11時よりプラントの出力を下げて当該弁の修理を行います。

なお、プラントの出力を下げる処置は、作業員の被ばく線量を低減するために行うものです。

(安全性、外部への影響)

・本事象による外部への放射能の影響はありません。

(公表区分)

・本事象は公表区分その他ですが、透明性向上のためにお知らせするものです。

詳細は以下のとおりです。

1. 事象の発生状況

平成20年6月30日、定格熱出力で調整運転中の当所5号機において、給水加熱器*¹の水位が下がったことを示す警報が発生し、3台ある給水加熱器ドレンポンプ*²の1台が自動停止しました。

現場を確認したところ、タービン建屋1階の復水器付近にある給水加熱器の水位調整弁の駆動部より、当該弁を動かすための空気が漏えいしていることを確認しました。

給水加熱器ドレンポンプが自動停止した原因は、当該弁から空気が漏れたため弁が動作不良となり、水位の制御が適切に行われなかったことによるものと推定しております。

2. 今後の対応

当該弁の修理を行うにあたり、現状の定格熱出力状態でも修理は可能ですが、作業員の被ばく線量を低減するため、7月12日午前11時より発電機出力を約39万キロワットまで降下させることとしました。

なお、当該弁の修理が終了したのち、発電機出力を定格熱出力に復帰させます。

3. 安全性、外部への影響

給水加熱器ドレンポンプは自動停止しましたが、他の機器には影響がなく、プラントは安定した状態で運転を継続しております。

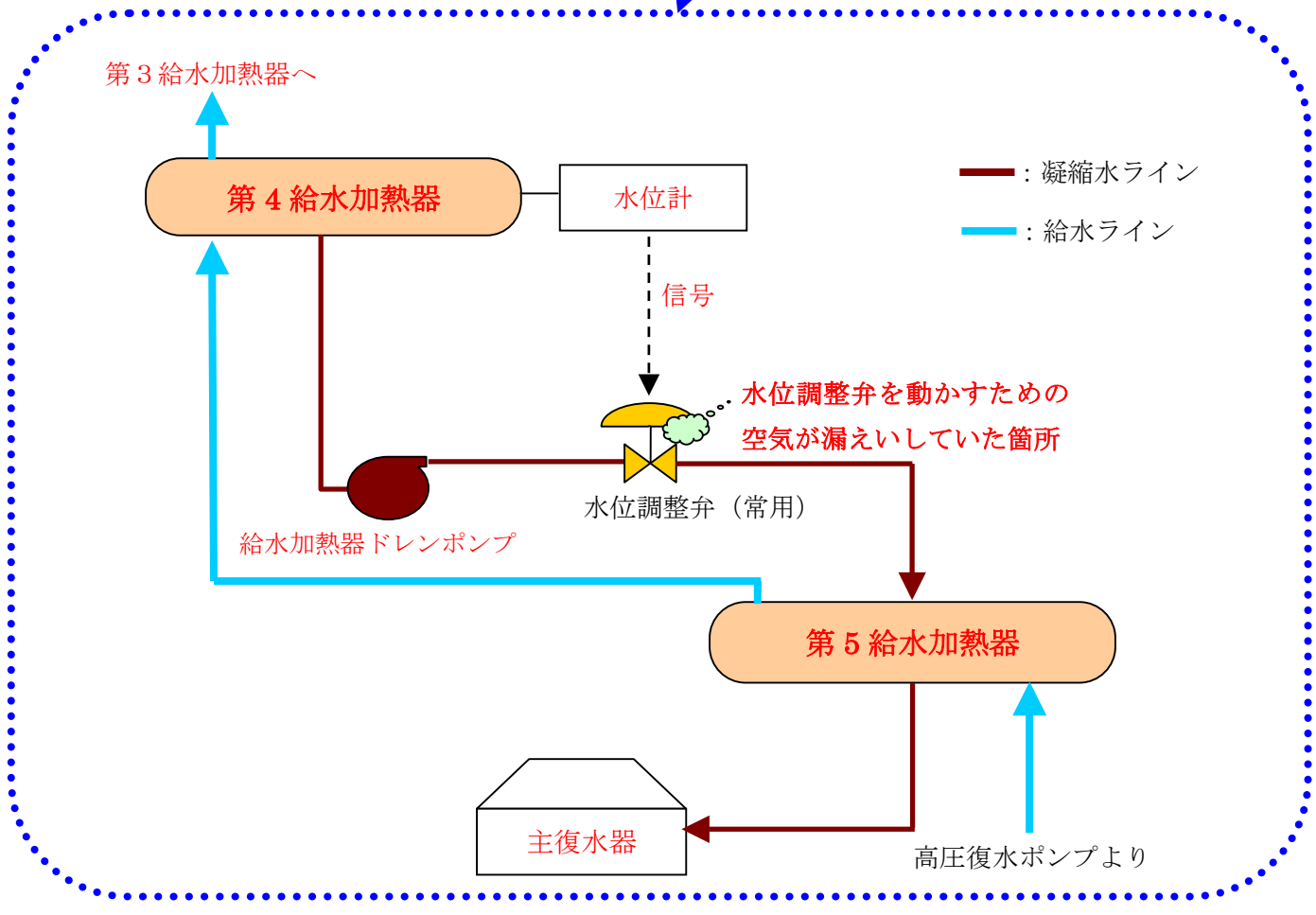
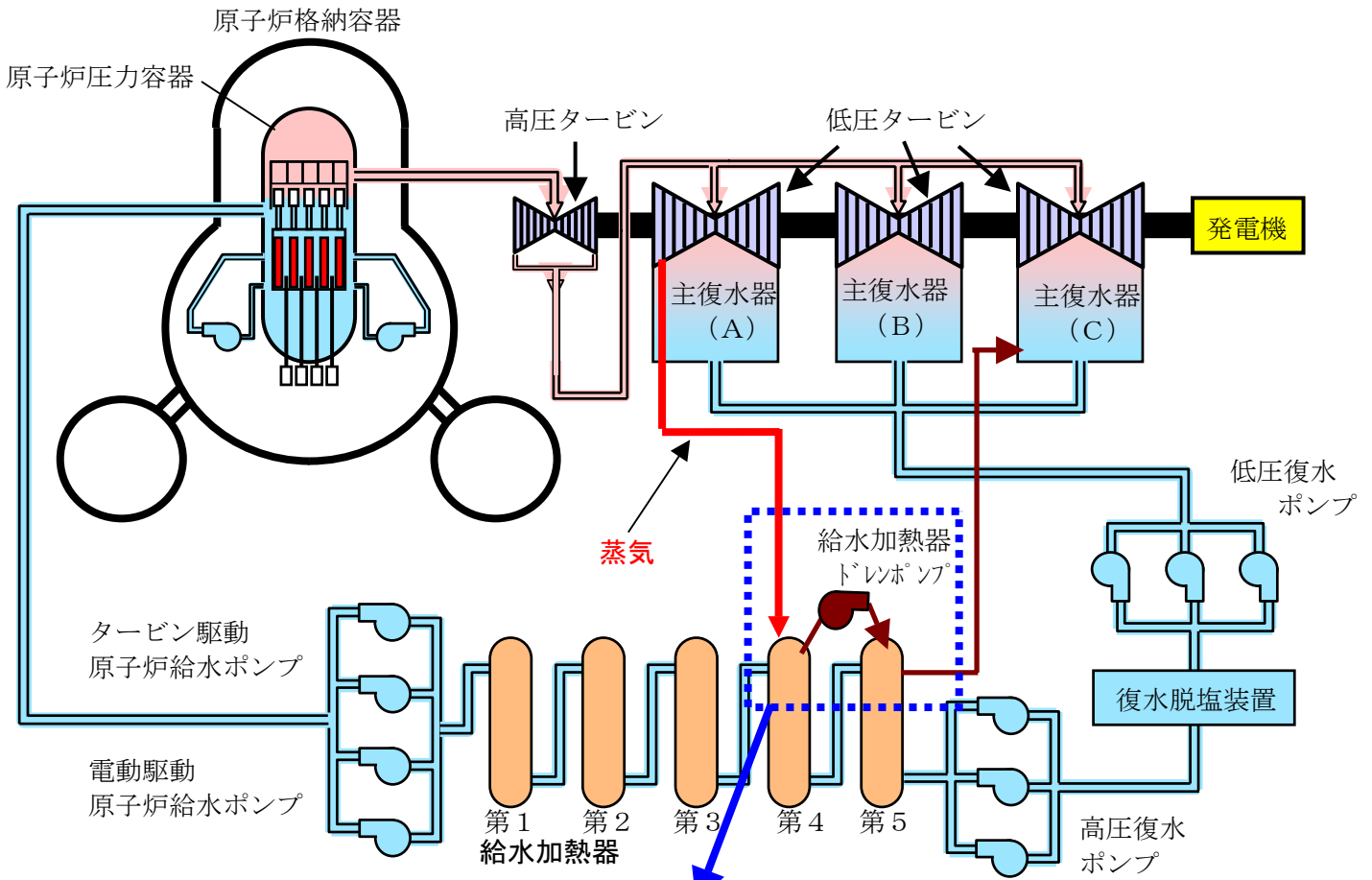
また、本事象による外部への放射能の影響はありません。

*** 1 給水加熱器**

復水器で水に戻された復水を原子炉に給水する際、熱効率を良くするため、蒸気タービンから抽出した蒸気（抽気）を用いて復水を加熱する装置。

*** 2 給水加熱器ドレンポンプ**

給水加熱器で発生する凝縮水を復水器に回収するためのポンプ。3台設置されている。



5号機給水加熱器概要図